

入賞

福を引き寄せるダルマと共に

郡山市立大槻中学校

くわな そら
桑名 優空

「海と花とアートに囲まれ、ダルマが願いを叶える町」それが私の描く双葉町。

私は、二年前から郷土を知りたいと思い、その中でどうしても震災を避けることはできなかった。今年の夏、双葉町を訪れ、再生に尽力されている人々から貴重な時間を与えていただいた。住民の帰還が他と比べ少ないのには、帰還困難区域の問題とインフラ整備状況がまだ十分でなく、安心して暮らせる住環境が整っていないことが挙げられる。けれど、そこで考えるのをやめたくないと感じ、私は双葉町の未来を想像してみた。双葉町には、「ダルマ市」という伝統行事があり、倒れても起き上がる七転八起きの縁起物を重ね、再起を願いたくなった。また人が集まり笑顔があふれてほしいと思ったからだ。

町に人を呼ぶ為には、特産や名所等の魅力が必要だ。双葉町は海に面して広い土地がある。私は「アート」に鍵を見付けた。今ある壁面アートを展開して全国の才能ある芸術家の方々をサポートする町にすると、国内外の芸術を愛する人が滞在、制作をし、その過程を見学し、ワークショップを受けられる交流の場が生まれる。また、海浜公園を設営して、四季折々の植物が楽しめ、アートの力を掛け合わせれば、年間を通して訪れたいくなる筈だ。冬場は植物の生育が難しいからイルミネーションで輝きを加えると、寂しげな夜間でも希望の灯火になれないだろうかと考えた。海を望み、アートに触れ

る。花々に癒され、交流が生まれる。目指すは町全体、集う人々が美しい日本一のアートの町だ。

全てを新しくする気はない。昔からの情景を残す為、「植物」の力を借りる。調べていく中で、ファイトレメディエーションという土の放射性物質を少しずつ減らしていく技術を知った。この研究も重ね合わせ、植物を育て除染を長期的に行っていく。私にも大好きな故郷の風景がある。今までの景観を壊すことなく保ち、環境その中で植物のアートを作り出す。現状では、植物が除去する力はそれほど期待できないと知ったが、震災後に県内で沢山植えられたひまわりを思い出して欲しい。私も記憶に美しく残っている。ひまわり畑の黄色に元気を与えられ、笑顔が自然と出てくるように、植物と根気強く除染をしていく。双葉町民の愛した土地を花で残したいと感じた。

私はあの震災を経験していないけれど、沢山の方が教えてくれた郷土への思いや美しい福島を取り戻したいという思いは一緒だ。福島(ここ)で生まれ育った私たちが望んでいる未来には、賑やかで活気ある市町村があって、そのどれもが自慢できる良い笑顔があること。私は双葉町を自信をもって国内外へ紹介したい。

この夏、私は見せていただいた双葉ダルマに願いを込めた。力強く起きあがる未来を信じている。負けねで共に未来を作っぺね!